



## カリスマ先生に聞く！

日能研 上尾校 室長

稲垣 孝明 先生

vol.4

4月は心機一転で学習習慣をつけやすい時。

そこで、今回は中学受験準備について日能研 上尾校の稲垣室長にお話をうかがいました。

保護者の  
お悩み

### 学習習慣と一口に言うけれど 受験につながる学習習慣って何ですか？

学習効果を上げるには、まず「型」を作る。それが学習習慣です。

日能研は2月に授業がスタートします。それで本格的な授業が始まるのは4月。ではこの間の2か月で何を  
するかというと、まさに学習習慣——その子なりの学習の型を作る時期だと私は捉えています。

「えっ、最初に型ですか？」と思われるかもしれませんが、型は大切です。人間は慣れる動物ですので、慣れ  
るとそれが一番やりやすく、力を発揮できる状態となるのです。ですから、保護者さまもまず「しっかり型を  
作る」ことを意識して、お子さんの学習習慣作りに臨んでいただければと思います。

では、その型とは具体的には何なのか、ですが、私が子どもや保護者さまにお伝えしているのは、「決めら  
れた時間」に、「決められたこと」を「決められた分量」でルーティン化するまでやるということです。

ひとつめのポイントは「決められた時間」で、寝る前とかご飯の前とか、いつでも構いませんのでやる時間  
を決めて、それを極力守ることが大切です。これを続けることで、この時間になると自然に心もやる気モードに  
入るようになります。よく「ぐずぐずして、勉強を始めるまでに時間がかかる」というご相談をいただくのですが、  
「この時間は勉強する」とルーティン化していけば、ずっと勉強に入るようになっていきます。

ふたつめのポイントが「決められたこと」をやるということ。夕ご飯前に国語、お風呂の前に算数とか、子ど  
もの集中力は続きませんので、一度に長くではなく、少しずつ分けて「これをやる」としっかり決めて実行する  
ようにしましょう。

そして3つめのポイントが「決められた分量」をやるということ。絶対できる易しい内容が8割。ちょっと挑  
戦くらいの難しめの内容を2割。子どもの負担にならず、必ずやり切れるという量に抑えておくのがコツです。「こ  
れが苦手だから、それをたくさん」というようなやり方は避けてください。嫌なものはやはりやりたくないです  
からね。勉強の楽しさは「わかって、できた！」を味わうことで出てくるものなので、どうしても最初は楽しいも  
のではありません。ハードルを下げて、自信をつけてあげることが大事です。学校の宿題なら、やったこと  
のでまずできるでしょうから、それを8割にあてて、ガウディアの学習を2割にあてる、でもよいですね。

この3つのポイントが揃うことで、「心だけ」「頭だけ」ではなく、心と体と頭が全部リンクして学習に向かう  
ことができ、学習の定着にも効果的な学習習慣が作れるのだと思います。



日能研 上尾校 室長  
**稲垣 孝明 先生**

指導歴 17 年。指導教科は算数。  
生徒の取り組む気持ちが異なると、  
どんなよい授業をしても効果はないので、最初の 3 分でいかに子どものテンションを持っていくか。  
ここをいつも一番大切にしていると語る。

- 日能研 上尾校 -

地元のお子さんを中心という上尾校。先生と子どもの距離が近くて、受付周りはいつも子どもたちの笑顔であふれています。「上尾校の日能研生はみんな頑張り屋なので、毎年とても素晴らしい合格実績も出ています」と稲垣先生。「楽しいから頑張れる」を実践している教室です。

[http://www.nichinoken.co.jp/np5/nnk2/branchdetail/index/kyoshitsu.php?site\\_code=DO](http://www.nichinoken.co.jp/np5/nnk2/branchdetail/index/kyoshitsu.php?site_code=DO)

## 小学生の時期の学習習慣には親のサポートが欠かせません。

また、「途中で飽きてしまう」という声を聞くのですが、集中力は個人差や年齢差があるので、小 4 以上であれば終わるまでやらせますが、その下であれば無理強いするのはオススメしないので、ときには次に回したりと、状況判断でよいと思います。

小学生の時期は、やはり子どもの学習習慣は親のサポートが必須です。10 歳くらいになると、他者から認め、ほめられることが何よりですが、それまでは一番身近な親に認められ、ほめられることが、子どもが一番嬉しいんです。ですから学習はぜひリビングで。家事をしながらなど、横についていなくても構いませんから、見守られていることがわかるように行ってみてください。親の存在を感じることで、安心して勉強に打ち込むことができるでしょう。

ただ、リビングは広いので子どもの注意が散漫になりがちです。手元照明を当てて、ちょっと周りを暗くすると、エリアが限定されて、集中できるゾーンが作れるのでオススメです。

## 「与えられたプリントをやればいい」という意識では中学受験は乗り越えられない。

中学受験は、最終的には親が手を放していかなければいけない時期がやってきます。それが小 5 の夏くらいでしょうか。これは「自分で学び、進んでいく子を育てる」という日能研ならではのかもしれませんが、そこから本格的に学習が難しくなっていく、いわゆるマニュアル通りではいかなくなります。そこで求められるのが、難しい問題や壁にぶつかったときに、自分で状況を打開していく力です。これは与えられたものや課せられたものだけをやっているのでは身についていきません。他所の学習教室や塾では、親御さんが宿題も丸付けも、プリントも管理してというようなやり方をしているところもあるようですが、それでは必ず限界がきます。せっかく合格しても後が続かない。リッパサービスだとは思いますが、「日能研の子が入ってから一番伸びていますね」と私立中学の先生が言ってくれたり、クイズ番組でチャンピオンになっていたりする人は、ほぼ日能研の出身です。

先生が言う「できたらやってみよう」という言葉を、「やらなくていい」と捉えるか、「できたらやろう」と捉えるか、そこが自分で学び、進んでいく人になれるかどうかの境目だと感じています。ですから、親御さんにはどうか「やってみよう」という、お子さんの挑戦する行為とか、意欲を伸ばすように見守っていただきたいですね。できた・できないの結果ではなく、やってみることが大事なんです。私はこれまで数十年の指導の中で、子どもに間違ったのがいけないと言ったことは一度もありません。ケアレスミスはなくす、というようなところは、それこそ 6 年生の中学入試を本格的に意識したときからで十分。「何でこんなミスするの」と言いたいところを「このミスはいいミスだね」とミスをも認めるような心で接してあげてみてください。

中学受験をするのは、まだ 12 歳の少年少女。大人と同じようなことを求めるのは無理なんです。ことに幼児や低学年であれば、なおさらです。「できたらやろう」ができるのは、好きな科目ですので、苦手やできないことをに目をとめるのではなく、好きな科目をとことん応援して伸ばしていくように意識してみてください。前向きになれば何でも楽しいですから。